

## 下水道機構の動き

# 地域の水環境 官学交流・共創会議 (アトリエMizukara)

### ◆ 官学連携はより重要に

下水道機構では、良質な技術の開発・確立を目指し、「技術の橋渡し」をスローガンに、産学官と連携した調査、研究開発、評価等を進めています。これまで、それぞれの強みを活かして連携し、下水道事業の課題解決に貢献してきました。

なかでも、処理場等の維持・運営等を通じて市民の皆様生活を支えている「官」と下水道の明るい未来への創造に向けた基礎研究等を進めている「学」の連携は、下水道事業の持続性の確保に向けて、より重要性が増しています。

### ◆ 相互共有の場に

現在、下水道事業を取り巻く課題は多岐にわたっており、各地方公共団体が抱えている課題は地域特性等によって千差万別です。

それぞれの課題の解決に向けて「官」と「学」の連携は不可欠であり、その橋渡しに貢献するため、下水道機構では令和5年度新事業として「地域の水環境官学交流・共創会議（アトリエMizukara）」を開始することとしました。



官学交流のイメージ

これは、下水道事業に関連する学識者と行政（県・市町村）の下水道部局の職員に数名ずつ参集いただくもので、行政側には「自分たちが抱える課題」、大学等の研究者には「取り組んでいる研究内容」等を発信していただき、相互の共有・理解を図ります。

### ◆ 継続的な取り組みとして

本会議は共同研究等のマッチングを前提とするものではありません。まずは、「互いを知ること」を目的としたコミュニケーションの場として活用していただき、その後の官学交流の契機となることを期待しています。

今後、開催地域を変えながら、年に2回程度実施していく予定です。実施状況については、本機関誌等でも報告していきたいと考えています。

下水道機構が「官」と「学」をつなぐ橋渡し役となるよう、取り組みを進めていきます。

#### アトリエMizukaraの由来

名称の「アトリエMizukara」の「アトリエ(atelier)」は、フランス語で「ワークショップ」を意味します。本来は「作業場」や「仕事場」を意味する言葉ですが、現代では参加者の主体性を重視した体験型の講座やグループ学習、研究集会などを指す言葉として浸透しており、官学が主体となる本会議の名称として使用することとなりました。また、「Mizukara」には「Mizu（水）」と「Mizukara（自ら）」という意味を持たせました。「官」、「学」それぞれが自ら発信することで相互理解を深め、その結果、下水道事業の課題解決に貢献できるような関係へと発展していくことを期待しています。